



六波羅蜜 六文六聞

ろくはらみつ

ろくもん ろくもん

六角圓滿 到於彼岸

ろっかくえんまん

とうお ひがん

六
聞
矣
ろく
もん
せん



おのおのが おのが正しき ひとやすみ (正=一止)

六つの角 八つにあたるは 悲しかり

布施 持戒 忍辱
精進 禅定 智慧

不生不滅

不垢不淨

不增不減

ヒエロニムス・ボス : 1485 年

『七つの大罪と四終』(Table
of the Mortal Sins / The
Seven Deadly Sins and the
Four Last Things)

1. 傲慢 (superbia) [Pride]
〈Lucifer〉
2. 嫉妬 (invidia) [Envy]
〈Leviathan〉
3. 憤怒 (ira) [Wrath]
〈Satan〉
4. 怠惰 (acedia) [Sloth]
〈Belphegor〉
5. 強欲 (avaritia) [Greed]
〈Mammon〉
6. 暴食 (gula) [Gluttony]
〈Beelzebub〉
7. 色欲 (luxuria) [Lust]
〈Asmodeus〉



『七つの大罪と四終』(Table of the Mortal Sins / The Seven Deadly Sins and the Four Last Things) ヒエロニムス・ボス : 1485年

1. 傲慢 (superbia) [Pride] 〈Lucifer〉
2. 嫉妬 (invidia) [Envy] 〈Leviathan〉
3. 憤怒 (ira) [Wrath] 〈Satan〉
4. 怠惰 (acedia) [Sloth] 〈Belphegor〉
5. 強欲 (avaritia) [Greed] 〈Mammon〉
6. 暴食 (gula) [Gluttony] 〈Beelzebub〉
7. 色欲 (luxuria) [Lust] 〈Asmodeus〉

初期ネーデルランド絵画の中で最も異彩を放つ巨匠ヒエロニムス・ボス初期の代表作『七つの大罪と四終』。スペイン国王でヒエロニムス・ボスの熱烈な愛好者であったフェリペ二世に所蔵され、エル・エスコリアル宮殿内の自身の居住区に飾られていた本作は、元々テーブル画として描かれた円形画であり、主イエスと銘文「汝ら心せよ、主は見そなわし給う」を中央に、キリスト教において七つの大罪とされる「憤怒」、「嫉妬」、「貧欲」、「大食」、「怠惰」、「淫欲」、「傲慢（虚栄）」を円を描くように配し、その四方には「死」、「最後の審判」、「天国」、「地獄」を配した構図が用いられている。その何れもヒエロニムス・ボス特有の解釈による大胆な場面表現が示されている。主イエスの真下には「憤怒」として争う人間を、その左には2匹の犬が骨を奪い合い敵対するというフランドルの諺を引用し「嫉妬」を、その左には権力者である裁判官の収賄場面から「貧欲」を、さらにその隣にはテーブルに溢れる食物を貪る大男の姿で「大食」を、教会へ向かうべく正装した女性が眠り耽る男を起こす場面で「怠惰」を、二組の男女が音楽や道化と戯れる姿で「淫欲」を、悪魔に与えられた鏡と向き合う女性の姿で「傲慢（虚栄）」を表現している。また本作に描かれる「七つの大罪」場面の上下には、旧約聖書の「申命記」から訓戒的な引用文「彼等は思慮に欠ける

民、洞察する力がない。もし彼等に知恵があれば悟るだろう。自身の行く末も悟ったであろう。（上部）」、「わたしは、わたしの顔を隠し、彼等の行く末を見守ろう。（下部）」が記されている。

つねに自らこの念をなす、何をもってか衆生をして 無上道に入り 速やかに仏身を 成ぜむことを

每自作是念 以何令衆生 得入無上道 速成就仏身（法華經壽量品第十六）